

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和2年度病害虫発生予察特殊報第4号について（送付）



霧島市で、ナシさび色胴枯病の発生が認められ、特殊報第4号を発表したので送付します。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（[www.jppn.ne.jp/kagoshima](http://www.jppn.ne.jp/kagoshima)）にも掲載しています。

## 病害虫発生予察 特殊報第4号

1 病害虫名 ナシさび色胴枯病 *Dickeya dadantii*（旧学名 *Erwinia chrysanthemi*）

2 発生作物名 ニホンナシ *Pyrus pyrifolia* Nakai（バラ科）

### 3 発生確認及び病原菌の同定

令和2年9月頃、霧島市のナシ（幸水）で急激な枯死症状がみられ、枝幹からは樹液様物が流出しさび色を呈していた。発病樹はジョイント栽培の一番端の樹で、先端部が接続された2本目でも、11月に同様の症状が認められた（図1，2）。

罹病部を農研機構 果樹茶業研究部門に同定依頼したところ、ナシさび色胴枯病であることが判明した。これまでの調査で、県内の主要なナシ産地である川薩、始良地区での発生は確認されていない（1月15日時点）。

### 4 本病害の特徴

#### （1）病原菌

本菌は土壌中に広く存在する細菌で、グラム陰性の桿菌である。生育適温は36～37℃であるため、夏期から秋期にかけて枝幹に発生することが多い。

#### （2）宿主植物

ナシ、マンゴー、モモ、リンゴ等

#### （3）病徴

罹病部は表皮が灰黒色の水浸状となり、表皮から形成層に至る組織内に樹液様物が充満する。その後、樹液様物は表皮の一部から流出し、乾固して鉄さび色に変色する。罹病部の樹皮下は褐変腐敗し、アルコール発酵臭がある。罹病部の先では落葉を伴い、枝幹の一部または全体が枯死する。

#### （4）伝染方法

病原菌は風雨によって樹皮の傷口等に付着し感染、発病する。また、土壌から根へ侵入し感染することも確認されている。

#### （5）他県での発生確認状況

本病は、昭和47年頃千葉県で初めて発生が確認され、秋田県、高知県、佐賀県など計8県で確認されている。海外では、本病害の発生は確認されていない。

## 5 防除対策

現在、ナシさび色胴枯病に使用可能な登録薬剤はないため、以下の防除を実施する。

- (1) 発病樹は伝染源になる可能性があるため、伐採、焼却等の処分を実施する。その際に使用した器具は消毒する。
- (2) ジョイント栽培では、発病樹と接続していた樹の生育をよく観察し、異常が見られたら直ちに接ぎ木部を外し、伐採、焼却等の処分を実施する。
- (3) 排水性が悪い土壌では発病しやすい傾向がある。多湿条件により傷んだ根からの感染や、雨水のはね返りによる樹皮の傷口からの感染を防ぐため、排水対策を行う。

## 6 参考文献等

- (1) Fujikawa T. et al.(2019) :JGPP 85:314-319.
- (2) Ota N. and Fujikawa T.(2020) :JGPP 86:199-204.
- (3) 梅本清作・長井雄治(1984) :日植病報第50巻第1号83.
- (4) 日本植物防疫協会(2020) 日本植物病名目録
- (5) 藤川貴史(2020) :植物防疫第74巻第8号2-7.



図1 主幹から樹液様物が流出した状況



図2 感染し早期落葉した枝